

《新聞号外に見る》戦前のオリンピック

オリンピック、パラリンピック — 4年に1度のスポーツの祭典。世界中のトップアスリートたちが、一瞬一瞬に全身全霊を傾けて競い合うその姿は、見るものに大きな感動を与えます。これこそ、時代を超えて変わらない、オリンピックの本質的な部分と言えるでしょう。

一方、オリンピックを取り巻く環境は大きく変化し、時代と共にその姿を少しずつ変えてきました。今回の小展示では、1932年(昭和7年)のロサンゼルスオリンピックを報じた新聞(号外)を紹介します。現在のオリンピックとの共通点や相違点を眺めてみましょう。



1932年(昭和7年)8月18日の大阪毎日新聞の号外です。ロサンゼルスオリンピックの男子三段跳で、南部忠平が世界新記録で優勝したことを写真入りで伝えています。

競技は8月4日に行われ、結果はすでに伝えられていましたが、その時の写真は、フィルムが船で運ばれたため、2週間遅れで届きました。

この号外は、南部選手の活躍を写真で伝えた、まさに人々が待ち望んだものでした。インターネットで瞬時に映像がかけめぐる現在と隔世の感があります。

この競技では、大島謙吉も3位に入ったため、掲揚台には二つの日の丸がはためいています。



8月18日号外の裏面。大会の様子を種々、紹介しています。



ロサンゼルスオリンピックの開会を報じています。(7月31日号外)



陸上男子400mリレー、予選通過。42秒2。吉岡・南部・阿武・中島。(8月7日号外)



競泳男子の活躍。宮崎が男子100mで優勝。河石が2位。高橋が5位。(上は8月7日、下は8月8日号外)



前畑秀子、女子200m平泳ぎで予選通過。前畑はこの大会で銀メダルを、続く昭和11年のベルリンオリンピックで金メダルを獲得しました。そのレースは「前畑、頑張れ」の実況で有名です。(8月7日号外)

